

## 5. 都市近郊の生態系ネットワークの構築に向けて

(発表者：富士通株式会社 畠山義彦)

### 富士通株式会社の事業所緑化と生物多様性

生物多様性条約 COP8にて企業に対して条約への参画を促す決議が採択され、また COP9 ではビジネスと生物多様性イニシアチブが発足し、益々企業の生物多様性に対する取り組みが期待されている。富士通は2008年5月ビジネスと生物多様性イニシアチブのリーダーシップ宣言に署名し、また2009年10月には富士通グループ生物多様性行動指針を発表した。この行動指針では、ICTの活用による生物多様性保全の推進や生物多様性の社会への普及を謳っている。

近年、都市近郊の生物多様性は宅地開発等により大きく損なわれ、また緑比率の低下やアスファルトやコンクリートによる光反射率の低下、熱吸収率の増加などによりヒートアイランド現象を引き起こし、地球温暖化を加速させている。

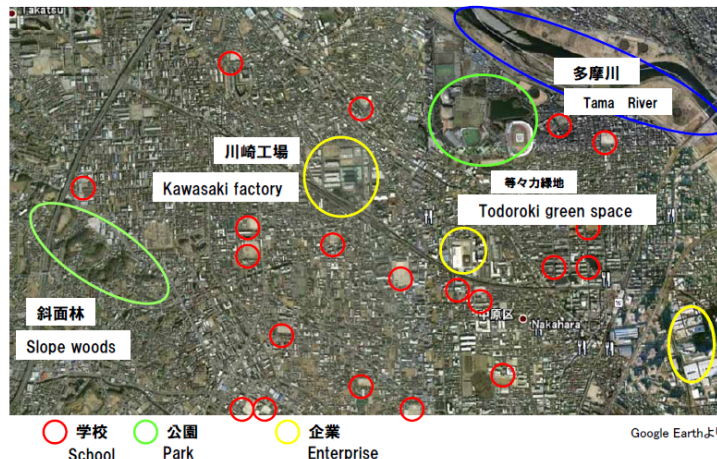
富士通では、創業当時より「自然と共生するものづくり」を目指し、川崎工場や沼津工場に代表されるように、事業所緑化に取り組んできたが、都市近郊におけるこれらの問題を解決するため、川崎工場がある神奈川県川崎地区での生態系ネットワークを構築することとした。今回、川崎工場の敷地のみならず、周辺地域を含めた川崎地区全体のエリアの生物多様性の保全を目指す生態系ネットワークの構築を進めている。



## 川崎地区生態系ネットワークの考え方 Idea of Kawasaki district ecosystem network

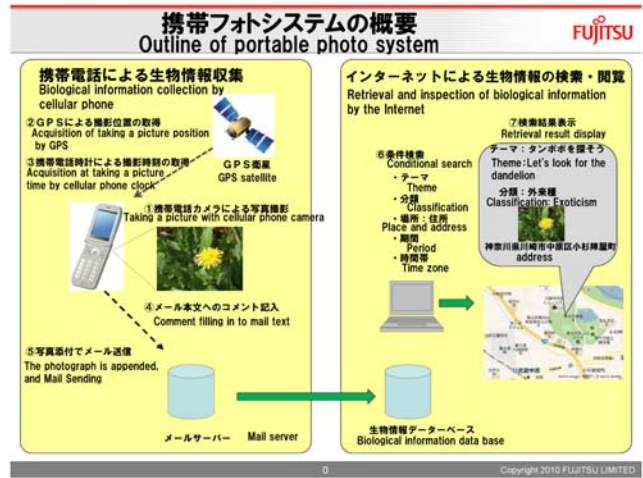


- 様々な主体による連携（行政、企業、学校、住民、NPO等）  
Cooperation by various subjects (The administration, enterprise, school, resident, and NPO, etc)
- 専門家との連携による生物多様性度の分析・評価  
Analysis and evaluation of state of biodiversity by cooperation with specialist



都市近郊の生態系ネットワーク構築への ICT 技術の応用

生態系ネットワーク構築のための第一ステップとして、地域の生態系調査を実施する必要がある。このとき重要なのが、野生動植物がいつ、どこに、どんな状態で生息・生育していたのかを収集・蓄積・分析することである。この生態系調査のために ICT を活用した携帯フォトシステムを導入し、生物情報の収集を試みている。このシステムは調査者が調査対象の生物（あるいは生息・生育域の環境）を GPS 機能付き携帯電話のカメラで撮影、GPS による位置情報と時刻情報が埋め込まれた写真をメール添付し、メール本文にはその生物の状態を記入しメールサーバへ送信する。メールサーバの生物情報はデータベースサーバに送られ、生物情報データベースに蓄積される仕組みである。



**全国タンポポ分布調査(社内トライアル)**  
Nationwide dandelion distribution investigation (In-house trial)



**目的 Purpose**

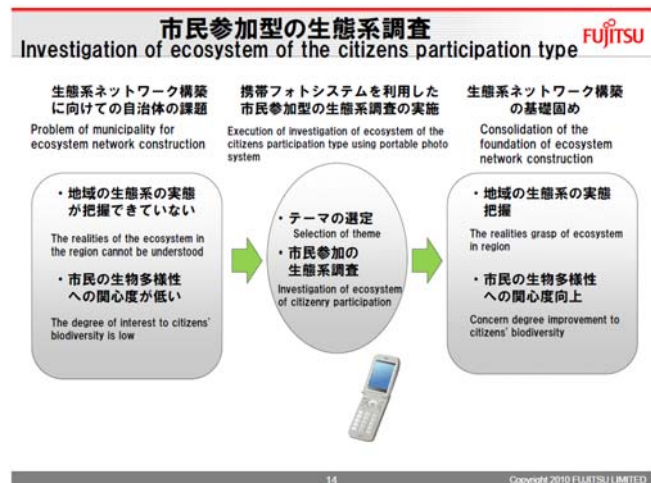
- ・ ICT の活用による生物多様性保全調査への適用検討・システムの検証および本業を通しての社会への貢献の可能性の検証  
Verification of application examination and system to biodiversity maintenance investigation by use of ICT and verifications of possibility of contribution to society through profession
- ・ 社員に生物多様性とは何かを知ってもらい、この活動を通して生物多様性保全への行動を起こすきっかけとする  
It knows something, and it is assumed to the employee the chance to take the action on the biodiversity conservation through this activity with biodiversity
- ・ 外来種のタンポポと在来種のタンポポの全国の分布状況を把握することにより、外来種の問題と里山保全活動の重要性を社員が認識する  
The employee recognizes the problem of the exoticism and the importance of the mountain conservation activity of the hometown by understanding the distribution situation of the whole country of the exoticism dandelion and the dandelion of native species



## 今後の展開の可能性

収集すべき生物情報は、テーマを決めテーマごとに生物情報データベースに蓄積される。社員や地域住民が参加しやすいテーマを選定することにより、多くの人たちの参加が可能となり、参加者の生物多様性に対する意識啓発につなげることができると考えている。また生物情報データベースに蓄積されたデータは、インターネットより地図上にマッピングして表示し閲覧することが可能となる。

今後は、適切なテーマ選定と多くの参加者による生物情報の収集と、収集したデータの分析・評価による生物多様性保全策の策定を行い、生物多様性保全の実施につなげていきたいと考えている。



## ICTの活用による生物多様性への貢献の可能性と役割

先の「富士通グループ生物多様性行動指針」にあるように、富士通では、リモートセンシングやデータベースの構築等のITC新技術の開発や提供により、生物多様性保全への貢献と社会的責任を担っていくことを目指している。今後は、このようなITC技術を、調査、保全、教育・啓発といった分野に適用を拡大し、また、自社グループの生物多様性への影響の低減から、お客様、地域社会、地球環境へと適用範囲を拡大し、ITC技術を扱う企業ならではの生物多様性への取組みを行なって行きたいと考えている。

### 質問.

最新の技術と取組みをご紹介頂き大変興味深かった。ご紹介いただいた技術は、現在は社内トリアル中とのことであるが、私のような一般市民が参画し活用できるようになるのはいつごろの予定になるか。

### 回答.

現在は社内のイントラネット環境にて実施しているが、今年中にはインターネット環境を構築し、一般市民の方が参画し活用できるようにしていきたい。